河川事業(環境事業)

再評価原案準備書

- 1 石狩川総合水系環境整備事業
- 2 網走川総合水系環境整備事業

令和7年度 北海道開発局

									一一一		
事業名 (箇所名)	石狩川総合水系	環境整備事業	担当課 担当課	長名	水管理· 島本和(国土保全局河川環境設 二	事業 主体	北海道開発局			
実施箇所	北海道砂川市、新十津川町、千歳市、旭川市、南富良野町、江別市、恵庭市等 評価 年度 令和7年度										
該当基準	社会経済情勢の	社会経済情勢の急激な変化により再評価の実施の必要が生じた事業									
主な事業の諸元	【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】 湿地整備、浅場・深場整備等 【千歳市かわまちづくり】 親水護岸、高水敷整正、管理用通路等 【旭川駅周辺かわまちづくり】 親水広場、取付道路、側帯等 【南富良野町かわまちづくり】 親水護岸、高水敷整正、管理用通路等 【江別市かわまちづくり】 高水敷整正、側帯、管理用通路、階段護岸等 【砂川地区かわまちづくり】 親水護岸、高水敷整正、管理用通路、水路工等 【恵庭かわまちづくり】 親水護岸、高水敷整正、管理用通路、水路工等 【恵庭かわまちづくり】 親水護岸、管理用通路等 【石狩川下流自然再生(幌向地区)】										
事業期間	事業採択	平成27年度	完了	令和22	年度						
総事業費(億円)	約37.7(約34.7) [※] ※()内の事業費は <解決すべき課	工事諸費を除いた事業費	残事業費(億円)		約21.2(※()内	約20.2) [※] の事業費は工事諸費を除いた事	業費				
		及	区)]								
						状況であるとともに、-					

・湿地環境:袋地沼は近傍まで農地が隣接しており水際植生が乏しい状況であるとともに、一部区域では抽水植物の群落が形成されているものの、浮葉植物や沈水植物の群落が少ない状況にある。以上から、湿地環境の再生に向けては水生植物の不足が課題として挙げられる。

その要因として、河川由来の切り立った河岸、平坦な河床地形のため水生植物の生育に好適な水位条件となる環境の不足、旧川周辺からの浮遊砂による濁度が高いことによる湖沼内への日射量の不足が考えられる。

・樹林環境:袋地沼は近傍まで農地が隣接しており樹木が乏しい状況となっている。また、南側の一部区域で面積が大きな樹林が形成されているものの、ヤナギ類の群落となっている。以上から、樹林環境の再生に向けては樹種、樹齢及び樹高の多様性が乏しい点が課題として挙げられる。

その要因としては、水面近傍まで農地が隣接していることや耕作放棄地へのヤナギ類の侵入が考えられる。

・水域の連続性:袋地沼は本川と袋地沼樋門によって接続しているものの、本川へと接続する水路には落差が生じている。以上から、 ネットワーク形成に向けては魚類の移動の連続性の確保が課題と考えられる。

【千歳市かわまちづくり】

・千歳川沿いは、住居系の土地利用が進んでおり、開放的な河川空間は地域住民などの憩いの場所として利用されています。一方で、住宅と河川敷が近接しており、河川空間の賑わいづくりにあたっては、地域住民の生活に配慮する必要があります。

・こうした千歳川沿いの状況や特性を踏まえ、千歳川に隣接した観光拠点であるサーモンパークと市民の憩いの場所であるグリーンベルトなどについて、拠点間の周遊性や利便性の向上を図り、地域住民の日常的な利用と新たな観光価値を高めるアクティビティがー体となった水辺空間を整備することにより、エリア全体の価値を高めるとともに、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を目指します。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

目的·必要性

・JR 旭川駅前から繋がる平和通買物公園周辺を含む本市の中心市街地は、郊外型商業施設等の出店が相次ぎ、老舗百貨店が閉店するなど、相対的に本市における中心性が低下してきている。

・徐々に中心性が薄れつつあった昭和60年代、中心市街地の将来像について検討がなされ、都心部の中心性の回復を図るとともに、 懸案となっていた忠別川で分断されていた都心部と神楽地区の連続化を実現させるための整備事業を推進してきた。

・そこで、JR 旭川駅南側地区を拠点としてかわまちづくり事業を推進し、市内に分散している観光・アイヌ文化教育の拠点となるエリア、常磐公園や旭川市科学館などの利活用の拠点となるエリアを「かわ」でつなぐことにより、新たな観光動線の創出やエリア間の観光客流動の活発化に伴う広域的な観光振興や活性化を一層推進する。

【南富良野町かわまちづくり】

・空知川が近接する当該地区は、明治35年の十勝線の幾寅駅の開業を契機に森林鉄道が敷設され、木材の貴重な輸送手段として発展した。町内の金山地区と併せて多数の木材関連工場が操業し、明治後半から昭和にかけて「林業のまち」として賑わっていたが、現在は木材工場がなくなり、かつての賑わいが薄れてきつつあるのが実情である。

・現在、空知川では、平成28年8月に発生した台風10号に伴う未曾有の洪水を安全に流下させることを目的に治水事業が進められている。水害時の迅速な水防活動・緊急復旧を目的として、幾寅地区の空知川左岸にMIZBEステーションを整備しているが、環境学習・防災教育等の文化活動や地域コミュニティの拠点としても利活用する地元からの要望があり、平常時の利活用方法等を早急に検討する必要が生じた。

・そこで、MIZBEステーションに併せて水辺とまちを一体的に整備し、MIZBEステーションの認知度・知名度、イベントでの利用価値、観光ポテンシャル等を向上させることで、交流人口の増加、水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベント等による広域的な観光誘客を図る。

【江別市かわまちづくり】

- ・石狩川と千歳川が合流する事業箇所周辺地域には、明治時代に始まった北海道の開拓において主要な交通手段だった鉄道と舟運の結節点である江別港がかつて存在し、外輪船(旧岡田倉庫)などの歴史的建造物が残っている。
- ・しかし、江別市街地築堤整備に伴う移設が必要となっており、江別市では令和5年度中の移設を予定している。
- ・今回の堤防整備に併せて、外輪船(旧岡田倉庫)の歴史的景観を活かしつつ、水辺とまちを一体的に整備し、交流人口の増加、歴史 的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出を行う。

【砂川地区かわまちづくり】

・平成27年8月、道央自動車道砂川SAにスマートインターチェンジが開通したが、砂川市内へ観光客を誘引するための観光資源をどう作っていくかが課題となっていた。

・また、石狩川の洪水調節のために平成7年に完成した砂川遊水地は、平常時は水上アクティビティや釣り、散歩等を楽しむオアシスパークとして利用され、美しい景観、広大な水辺空間等の魅力を有していた。

・そこで、地元関係者・砂川市・河川管理者からなる「オアシスパークからゆめまちづくり協議会設立準備会」が平成28年1月に発足し、 砂川オアシスパークを観光情報の拠点、休憩ポイント等として利活用するため、協議・検討が進められてきた。

・平成30年1月、より具体的な事業計画の策定と実践のために協議会が設立され、市民及び関係者の期待も高まっている。 【恵庭かわまちづくり】

・恵庭市では、「恵庭市総合戦略」に基づき、職・住・観光機能の拡充のため、「ガーデンデザインプロジェクト」を推進しており、事業箇所に近接する道と川の駅周辺を「花のビレッジ」と位置付け、花の拠点(公園)の整備及び新住宅団地建設を進めている。

・事業箇所である漁川の河川空間は、隣接する市街地で展開される花の拠点及び新住宅団地と一体となった新たな「恵庭市の交流 観光の拠点」として、市民及び観光客が、気軽に自然と触れ合い、多様なレクリエーションを楽しみ過ごすことができる魅力あるレクリ エーションエリアとしての役割を担うことが期待されており、河川空間へのアクセス向上、親水機能の向上等が課題となっている。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・夕張川下流部の高水敷には、ボッグ(ミズゴケを主体とする湿原)が多くを占めた幌向原野の名残である高位泥炭が広く分布している。

・夕張川の高水敷では、地表面付近の水分の染み出しにより泥炭層の表面から乾燥し、分解が進行している。その結果、本来は、泥炭地では見られないオオアワダチソウ(外来種)等の乾いた所を好む植物が高位泥炭地に侵入し、ホロムイコウガイ等の地域固有の希少な湿生植物の生育環境が消失してきている状況にあり、このまま放置すると、貴重なボッグが失われるおそれがある。

く達成すべき目標>

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

·「石狩川下流自然再生計画」を踏まえ、①湿地環境の再生、②樹林環境の再生、③ネットワークの形成を袋地沼における自然再生の目標とする。

【千歳市かわまちづくり】

・千歳川沿いの状況や特性を踏まえ、千歳川に隣接した観光拠点である道の駅サーモンパーク千歳と、市民の憩いの場所であるグリーンベルトの拠点間の周遊性や利便性の向上を図る。更に、地域住民の日常的な利用と新たな観光価値を高めるアクティビティが一体となった水辺空間を整備することにより、エリア全体の価値を高めるとともに、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を目指す。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指す。

・地元住民が安心して遊び、憩い、愛着を持って接することができる河川空間を整備することによりJR旭川駅周辺の地域づくりに寄与する。

【南富良野町かわまちづくり】

目的·必要性

・地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上と、ブランドイメージ定着を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指す。

・地元住民が安心して遊び、憩い、愛着を持って接することができる河川空間を整備することにより、幾寅市街地の地域づくりに寄与する。

【江別市かわまちづくり】

・江別市かわまちづくりは、外輪船(旧岡田倉庫群)の歴史的景観を活かしつつ、高水敷整正、側帯、管理用通路等の水辺整備を行うことで、市民が日常的に水辺を利用し、水辺とまちをつなぐ人の流れや民間活力を取り入れ、河川空間の賑わいを創出することを目指す。

【砂川地区かわまちづくり】

・本事業は、自治体、協議会及び国が連携し、「砂川遊水地」を、より利便性及び安全性の高い親水レクリエーション空間として整備するものである。

・国道12号沿線の砂川市街地中心部の商業施設等から至近の距離にある「砂川遊水地」について、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携した利活用を推進し、交流人口の増加、地域活性化等を目指している。

【恵庭かわまちづくり】

・本事業は、恵庭市と国が連携し、漁川へのアクセス向上のための管理用通路及び親水施設の整備を行うものである。隣接する花の拠点(公園緑地)整備及び民間による新住宅団地の計画と連携して、より魅力的な水辺空間を創造し、交流人口の増加、居住環境の向上等を目指している。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・幌向地区の自然再生は、石狩川下流において大きく減少した湿原の再生を目指し、石狩川下流自然再生計画書に基づき、石狩川の湿原の特徴であるボッグを中心とした湿原を再生するものとする。整備に当たっては、目指す環境が最小限の人為的な補助により自然に再生されることを基本とする。

<水辺整備>

【千歳市かわまちづくり】CVMにて算出(令和7年度算出)

支払い意思額:278円/世帯/月(住民)、受益世帯数:34,035世帯(令和2年国勢調査250mメッシュ人口・世帯を用いて、事業箇所10km 圏内のみを集計)

支払い意思額:408円/人/日(観光客:日帰り)、支払い意思額:452円/人/日(観光客:宿泊)、受益者数:480,596人日/年(観光客:日帰り、令和2年度~令和6年度平均)、63,874人日/年(観光客:宿泊、令和2年度~令和6年度平均)

【旭川駅周辺かわまちづくり】CVMにて算出(令和5年度算出)

|支払い意思額:488円/世帯/月(住民)、受益世帯数:194,208世帯(住民基本台帳 令和5年1月)

支払い意思額:380円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:839,386人日/年(観光客:日帰り、平成30年度~令和4年度平均) 【南富良野町かわまちづくり】 CVMにて算出(令和5年度算出)

支払い意思額:595円/世帯/月(住民)、受益世帯数:44,231世帯(住民基本台帳 令和5年1月)

支払い意思額:947円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:234,197人日/年(観光客:日帰り、平成30年度~令和4年度平均) 【江別市かわまちづくり】CVMにて算出

支払い意思額:429円/世帯/月(住民)、受益世帯数:62,599世帯(住民基本台帳 令和4年1月)

支払い意思額:825円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:527,965人日/年(観光客:日帰り、平成28年度~令和2年度平均) 【砂川地区かわまちづくり】 CVMにて算出(令和5年度算出)

支払い意思額:636円/世帯/月(住民)、受益世帯数:56,776世帯(住民基本台帳 令和5年1月)

支払い意思額:495円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:202.538人日/年(観光客:日帰り、平成30年度~令和4年度平均)

【恵庭かわまちづくり】 CVMにて算出(令和5年度算出) 支払い意思額:442円/世帯/月(住民)、受益世帯数:86,444世帯(住民基本台帳 令和5年1月)

支払い意思額:406円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:531,247人日/年(観光客:日帰り、平成30年度~令和4年度平均)

<自然再生>

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】CVMにて算出(令和7年度算出) 目的:必要性

> 支払い意思額:515円/世帯/月(住民)、受益世帯数:31,279世帯(令和2年国勢調査250mメッシュ人口・世帯を用いて事業箇所10km圏 内のみを集計)

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】 CVMにて算出(令和5年度算出)

支払い意思額:604円/世帯/月(住民)、受益世帯数:154,315世帯(住民基本台帳 令和5年1月)

	大风· 心心说: 00 11 / 产市/ 77 / 正众八 文画产市 X: 10 10 10 产市 / 正众至不自私 「1110 平 171/										
	基準年度	令和7年	度								
事業全体の投資 効率性	B:総便益 (億円)	979	C:総費用(億円)		41	全体B/C (社会的割引率1%) (社会的割引率2%)	23.7 (46.3) (36.4)	В-С	938	EIRR (%)	31.8
残事業の投資効 率性	B:総便益 (億円)	345		18	継続B/C	18.8					
		事業全	È体のB/C	残事	業のB/C						
感度分析	残事業費(+10%·	~ −10%) 22.7	~ 24.7	17.2	~ 20.	7					
	残工期(+10%~	·-10%) 23.4	~ 24.0	18.3	~ 19.3	3					
	便 益(−10%~	+10%) 21.3	~ 26.1	16.9	~ 20.	7					

|【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

- ・<湿地環境の再生>(現状10ha→ 計画23ha(13ha増加))浅場の形成:切り立っている水際を緩傾斜化することで水生植物帯を形成 し、魚類の隠れ場・産卵場となる浅場環境を形成する。
- ・<湿地環境の再生>(現状10ha→ 計画23ha(13ha増加))深場の形成:一様に平坦な湖沼地形となっているため、多様な水深に整え ることで、魚類の退避場・休息場となる深場環境を形成し、生物の多様な生息空間を形成する。
- ・<樹林環境の再生>(現状4ha→ 計画16ha(12ha増加))多様な樹種による樹林形成:現状でヤナギ類が優占する範囲を切下げるこ とで、ヨシ等の湿潤環境を好む植物を主体とした草地環境を形成し、草原性鳥類の生息環境を形成する。
- ・連続する河岸の樹木は極力保全し、連続性が保たれていない区間は河畔林樹木の移植等により樹林の連続性を形成する。
- ・<ネットワークの形成>(現状0カ所→ 計画1か所(1か所増加))袋地沼は石狩川及び流入支川との間に落差が生じており、魚類の 連続性の確保の施策として、石積みや土嚢、コンクリート構造物によって段差を解消する方法が考えられる。 ・袋地沼においては、落差下への土嚢や蛇篭設置による簡易的な手法により、効果検証しながら整備を進める。
- ・<管理用通路の整備>袋地沼北側にある既存の道路を活用した管理用通路を整備することで、維持管理の利便性を図る。
- ・管理用通路の整備は、現状の釣りや渡り鳥の観察等の利活用における利便性の向上が期待される。
- ・また、事業により形成された自然豊かな湖沼景観を楽しむ散策路として利用を通じ、インフラツーリズムなど地域活性化などへの波 及効果が期待される。

【千歳市かわまちづくり】

「千歳市かわまちづくり」の整備により、地域住民の日常的な利用と新たな観光価値を高めるアクティビティが一体となった水辺空間 を整備することで、千歳市街地の認知度・知名度のさらなる知名度の向上、グリーンベルトや道の駅サーモンパーク千歳を中心に「か わ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図る。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・「旭川駅周辺かわまちづくり」の整備により、既存アクティビティの機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情 報発信を行うことにより、旭川市街地の認知度・知名度のさらなる向上、地域観光のゲートウェイであるJR旭川駅を中心に「かわ」と 「まち」が一体となった賑わいの創出を図る。

【南富良野町かわまちづくり】

・「南富良野町かわまちづくり」の整備により、MIZBEステーションの利活用施設としての機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情報発信を行うことにより、MIZBEステーションの認知度・知名度向上、MIZBEステーションを中心に「かわ」と「まち」 が一体となった賑わいの創出を図る。

事業の効果等

【江別市かわまちづくり】

- ・外輪船(旧岡田倉庫)は、江別市の芸術・文化の発信を目的としたイベントスペースとして活用されており、最近では海外アーティスト の展示会やプロジェクションマッピング等が行われている。
- ・近年、周辺では住民の転入や保育施設の開設等が見られはじめており、整備により日常的な散策や水辺利用が見込まれている。冬 場はファットバイク・クロスカントリースキーコースを設定することで、周辺施設と一体となった水辺空間が創出され、地域の魅力向上と 活性化に寄与する。
- ・また、同時に江別市の観光誘客を推進することで、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベントによる市内 外からの広域的な観光誘客、交流人口の増加が期待される。

【砂川地区かわまちづくり】

- ・親水護岸の整備や多目的広場の基盤整備等により、地域の住民及び砂川市を訪れる観光客が、水上及び水辺での様々なレクリ エーション活動を、より安全、快適に行えるようになる。
- ・また、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携することで、町の中心と水辺との間に人の流れを作り出し、地域の観 光振興や地域活性化が期待される。
- ・砂川遊水地の利用者数は順調に増加しており、令和6年度には約3.4万人の利用があった。

【恵庭かわまちづくり】

- ・新たな親水エリアの創出や、これまでできなかった水際での水生生物観察などが可能になるとともに、隣接市街地と一体的な魅力的 な水辺空間が形成される。
- ・近年、新型コロナウイルス拡大の影響により観光市場全体が落ち込んでいるなかで、令和2年3月にリニューアルオープンした「道と 川の駅 花ロードえにわ」の利用者数が100万人以上を維持しており、併設された直売所の売上げが大きく増加しているなど、集客力 の高い施設となっている。
- ・これらの観光施設や、周辺で多数展開されているイベントとの連携により、地域の交流人口の増加や観光振興など地域活性化が期 待される。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・ほろむい七草を始めとした希少な湿生植物の生育地の形成に向け、ミズゴケ属の群落に代表される多様なボッグの生育環境の形成 が期待される。また、このボッグの周辺では、ヨシ属・スゲ属群落に代表される多様なフェンの形成など、整備箇所周辺とボッグの間の 移行帯の形成が期待される。

・現在、遮水壁の設置により湿地面積が回復傾向にあり、その効果が発現している。

①関連事業との整合

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

- ・令和7年2月、生態系ネットワーク形成にかかわる総合的・全体的なテーマの取組検討や、"シンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会"の設立支援・取組支援、各協議会横断的な情報共有を目的とした、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」が設立された。
- ・今後は全体構想を踏まえ、それぞれの推進協議会が掲げるシンボル種もしくは重要な生態系に沿った、より具体的な生態系ネットワーク形成の取組を推進する。協議事項、組織などは、推進協議会ごとに定める。
- ↑・袋地沼における自然再生は、「氾濫原湿地・湖沼をテーマとした推進協議会」の中の取り組みの一つに位置付けられる予定である。

【千歳市かわまちづくり】

- ・<千歳川桜プロジェクト>千歳川に市民が植樹した約300本の桜や柳は、台風や病気などにより減少していた。これを受け、千歳市では平成28年度から千歳川の両岸約1.6kmの区間に桜を植樹して連続した桜並木とする「千歳川桜プロジェクト」を実施し、千歳川沿いの良好な水辺空間の形成による賑わい・憩いの空間の創出や千歳市街地の活性化を図っている。
- ・<千歳川河川緑地整備事業>千歳市第7期総合計画の実施計画では、河川環境の整備の指標として遊歩道の連続性の確保を挙げている。また、千歳川河川緑地整備事業として、千歳川沿いの休憩施設や照明灯の整備を進めている。これらに加え、かわまちづくり計画に基づく整備により遊歩道の分断解消など、さらなる利便性の向上を図る。
- ・くちとせ未来ビジョン>千歳市では、令和3年度に国土交通省の「ウォーカブル推進都市」に参画するとともに、まちの顔となるグリーンベルト周辺エリアの将来像やまちづくりの取組の方向性を議論・共有するため、官民の幅広い関係者が参加する「ちとせエリアプラットフォーム」を設立し、令和5年2月に「ちとせ未来ビジョン」を策定した。「ちとせ未来ビジョン」には、実現に向けた取組として「空間資源の活用」、「ウォーカブルなまちなか」などが挙げられており、かわまちづくりとの連携により、千歳川の空間資源の活用およびウォーカブルなまちなかの形成を図る。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

- ・川からのまちづくりを基本コンセプトとし、忠別川沿いの自然環境空間と買物公園等、既存市街地の都市と自然の一体化を図り、中心市街地の賑わい創出と活力を取り戻すことを目的に実施した。忠別川の大きな景観を生かしながら、都心部にくつろぎの空間を創り出すことによって生活に潤いをもたらすとともに、雄大な自然環境や北国旭川の気候で育った植物を市民や観光客が身近に触れ楽しむことができる「あさひかわ北彩都ガーデン」等を整備した。
- ・自転車利用の安全性・快適性の向上を図り、牛朱別川河川管理用通路への積極的な誘導を推進するため、「石狩川上流サイン設置 指針」に基づき、牛朱別川左岸に案内標識を設置した。案内標識は設置箇所を最小限とし、ピクトグラムや英語表記を採用し、増水・ 道路交差の注意喚起や拠点施設までの距離等複数の機能を持たせ、利用者の視認性向上に貢献している。

【南富良野町かわまちづくり】

・道路利用者のための休憩機能、道路利用者や地域の人々のための情報発信機能、地域のまち同士が連携する地域の連携機能という3つの機能を併せ持つ道路施設として、南富良野町と道路管理者が連携し、道の駅「南ふらの」を国道38号沿いに整備した。空知川に生息するイトウやアメマスを自然に近い状態で展示しているほか、南富良野産の農産物加工品や木彫品、陶芸品、手芸品等を販売している。

社会経済情勢等 の変化

・国土交通省の令和元年度「重点道の駅」に選定されたことを受け、道の駅再編整備計画を推進し、令和4年度にレンタルショップやアウトドア商品を取り扱う複合型商業施設、令和6年度に公園を新たにオープンし、令和7年度に南富良野町物産センターをリニューアルオープンした。

【江別市かわまちづくり】

・江別市では、「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27年策定)に基づき、観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指している。具体的な施策として、石狩川や歴史的構造物などの地域資源を観光振興への有効活用とすること等を掲げている。・令和元年8月に設立された「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」では、札幌市及び近隣の11市町村が連携し、観光客を増加させ、圏域全体の観光消費を増大させるために、戦略的な共同プロモーション事業等を実施しており、当該事業箇所を拠点として活用することを検討している。

【砂川地区かわまちづくり】

・「第2期砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標のうち「新しい人の流れをつくる」を実現するために、行政、地域及び関係団体が連携して砂川オアシスパークの更なる利活用を通してまちの活性化を図る。

【恵庭かわまちづくり】

- ・「恵庭市総合戦略」に基づき、恵庭市では「ガーデンデザインプロジェクト」として職・住・観光機能の拡充を推進しており、花のビレッジ(現 はなふる)、駅周辺の賑わいづくり、工業団地の用途拡大を機能的、複合的に推進すること等により、田園と都市の融合を目指している。
- ・恵庭かわまちづくりは、「花のビレッジ」構想の施策の一つに位置付けられており、事業箇所に隣接する「花の拠点(公園)」及び「松園地区新住宅団地(スマートタウン)」と連携し、魅力的な河川空間の整備を図り、新しい「恵庭市の交流観光の拠点」 の創出を目指している。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・幌向地区の自然再生は、体験学習、環境教育など自然環境の保全に対する啓発や、幌向地区で再生される景観や様々な植生の観 光資源としての活用を促進するなど、地域活性化に資する取組を行い、地域社会に貢献していく。

②河川等の利用状況

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

- ・袋地沼では、休日にヘラブナ釣りを行う釣り人が多く訪れている。
- ・また、ハクチョウを中心とした渡り鳥の中継地となっており、新十津川町では袋地沼は白鳥公園として親しまれ、渡り鳥の観察にも利用されています。

【千歳市かわまちづくり】

- ・千歳市街地を流れる清流千歳川は、その自然を生かした河川整備が進められており、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として河川空間を利活用している。
- ・グリーンベルトの清水町親水公園は、子供たちの遊び場となっており、夏期には平常時・イベント開催時を問わず水遊びなどに利用されている。
- ・「RIVER CITY PROJECT CHITOSE」等のイベント時には、カヌーによる千歳市街地の川下り等の水上アクティビティ体験が開催される。
- ・千歳川沿いに管理用道路が整備され、遊歩道として散歩、ジョギング、犬の散歩などに利用されている。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

- ・旭川市の河川敷地は、大雨等による川の増水時の水位の急激な上昇を抑える役割を果たしているとともに、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として河川空間を利活用している。
- ・忠別川・牛朱別川沿いの河川管理用通路で、散策やサイクリング等を楽しむ光景が見られる。
- ・忠別川沿いの「あさひかわ北彩都ガーデン」では、夏には「北彩都ガーデンフェスタ」、秋には「オータムガーデン」、冬には「冬の遊び 広場」等多くのイベントが開催されており、多くの市民が様々なコンテンツを楽しんでいる。
- ・「あさひかわ北彩都ガーデン」は、庭園だけでなくランニングや歩くスキー等も楽しむことができ、令和3年度には約11.5万人が来場している。
- ・市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいる。

【南富良野町かわまちづくり】

- ・南富良野町は、度々空知川の洪水氾濫に見舞われてきた地域だが、河川整備が進められており、多くの町民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として広く河川空間を利活用している。
- ・空知川沿いの河川管理用道路で、散策やサイクリングを楽しむ光景が見られる。
- ・夏には「かなやま湖湖水まつり」、冬には「氷点下まつり」等のイベントが開催されており、かなやま湖畔で多くの町民が森と湖を背景に行われる多彩なプログラムを楽しんでいる。
- ・カヌーによるかなやま湖の水上散歩やラフティングによる空知川の川下り等、様々なアウトドアアクティビティが行われている。
- ・かなやま湖畔キャンプ場にはログ風の水洗トイレ、炊事場、野外ステージが整備されており、毎年多くの利用者が来場している。 【江別市かわまちづくり】
- ・当該整備箇所では、春には「こいのぼりフェスティバル」、夏には「えべつ花火」や「石狩川リバーセーリング」等、多くのイベントが開催されている。また、NPO主体で開催された「ミズベのロングマーケット」では、千歳川沿いで多くの市民がコンサート・雑貨販売等を楽しんでいる。
- ・整備箇所に隣接する江別河川防災ステーションでは、江別の観光の紹介及び物産の販売を行っており、年間約11.3万人(令和5年度)が来場している。
- ・他にも、市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいる。

【砂川地区かわまちづくり】

・「砂川遊水地」は、「砂川オアシスパーク」として親しまれ、サイクリングやヨット、水上バイク、釣りなどに利用されるとともに、「石狩川下覧櫂(くだらんかい)川下り大会」、「ラブ・リバー砂川夏まつり」などのイベントが開催される水辺のレクリエーションエリアとなっていて、

【恵庭かわまちづくり】

- ・事業箇所に近接する「道と川の駅 花ロードえにわ」は、年間約100万人の利用者があり、えにわマルシェなど様々なイベントが実施されている。
- ・また、「道と川の駅 花ロードえにわ」に隣接して水遊びのできる多目的広場ウォーターガーデンが設置されており、子供や家族連れでにぎわっている。
- ・事業箇所である漁川の河川空間は、散策、ジョギングやサイクリングなどに利用され、市内外から多くの人が訪れる水辺のレクリエーションエリアとなっている。

社会経済情勢等 の変化

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・計画地周辺は、地域のNPO法人によるフットパス行事、環境教育・研究の場等として利用されている。

③地域開発の状況

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

・袋地沼沿川地域(新十津川町、砂川市)の令和7年1月1日現在の人口は約2万人であり、近年は減少傾向にある。

【千歳市かわまちづくり】

・千歳市の令和7年1月1日現在の人口は約10万人であり、近年、大きな変化はない。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・旭川市の令和7年1月1日現在の人口は、約32万人であり、近年は減少傾向にある。

【南富良野町かわまちづくり】

・南富良野町の令和7年1月1日現在の人口は、約2千人であり、近年は減少傾向にある。

【江別市かわまちづくり】

・江別市の令和7年1月1日現在の人口は、約12万人であり、近年、大きな変化はない。

【砂川地区かわまちづくり】

・砂川市の令和7年1月1日現在の人口は、約1.5万人であり、近年、若干の減少傾向にある。

【恵庭かわまちづくり】

・恵庭市の令和7年1月1日現在の人口は、約7万人であり、近年、大きな変化はない。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

・南幌町の令和7年1月1日現在の人口は、約0.8万人であり、近年、大きな変化はない。

④地域の協力体制

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

- ・自然再生の計画・実施にあたっては、地域の自治体、NPO団体、関係機関、学識者などと連携を図りながら、幅広い地域合意のもと取り組みを推進する。
- ・令和6年11月には、「石狩川下流袋地沼自然再生実施計画書」の作成、及び同計画の実施、フォローアップ等を行うことを目的として、石狩川下流袋地沼自然再生ワークショップが設置された。住民代表、関係行政機関、河川管理者などが参加し、様々な視点による意見交換を行っている。
- ・さらに、自然再生の取り組みを通じて地域間の交流を活発化することで地域ネットワークを形成し、継続的な取り組みを担う人材育成、地域づくりに貢献する。

【千歳市かわまちづくり】

- ・平成27年3月に千歳青年会議所の主催により「ミズベリング千歳会議」が開催され、千歳川の将来の利活用について協議された。また、この会議の結果を基に、令和2年8月にかわまちづくり計画作成の参考とするための「かわまちづくりワークショップ」が開催された。
- ・更に、千歳市では令和3年にちとせエリアプラットフォームを設立し、地元商業者、青年会議所、学識経験者や学生などが参画してグリーンベルト周辺のまちづくりの将来像や取組の方向性が議論され、令和4年度には社会実験として千歳川を活用したイベントが開催されるなど、千歳川の更なる利活用に向けた検討が進められている。
- ・令和6年1月には千歳市、学識経験者、地元関係者等からなる「千歳市かわまちづくり検討会」が設置され、以降計5回の検討会と1回の現地視察を開催し、「千歳市かわまちづくり」計画の策定に向けた検討・協議を行った。

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・令和4年5月以降、「旭川駅周辺かわまちづくり懇談会」を計3回開催しており、JR旭川駅南側地区を拠点とする忠別川・牛朱別川の 水辺整備・利活用方法や「かわまちづくり」計画等に関する協議結果を議事要旨としてとりまとめ、ホームページで公開している。

・また、ソフト・ハード施策の立案にあたり、河川管理者や地元事業者と合同で現地確認を行い、水辺空間の現状について認識を共有するとともに、整備・利活用や運営体制に関する意見交換を行っている。

【南富良野町かわまちづくり】

・令和4年10月、南富良野町、河川管理者、地元関係者等からなる「南富良野町水辺空間利活用意見交換会」を開催し、当該地区の水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行うとともに、道の駅「南ふらの」やMIZBEステーション周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議した。

・令和5年2月、南富良野町、河川管理者、アウトドア事業者等からなる「空知川における都市・地域再生等利用区域勉強会」を開催し、 当該地区やかなやま湖を含む空知川における都市・地域再生等利用区域の指定に向けた意見交換を行った。

・また、令和5年3月、南富良野町、河川管理者、自治会からなる「南富良野町河川空間利活用協議会」を開催し、かなやま湖周辺や空知川等の景観、歴史、文化及び観光資源や地域の創意を生かした水辺の賑わいの創出と将来のまちの活性化・元気再生に寄与することを目的として、河川空間の利活用に関する意見交換を行った。

【江別市かわまちづくり】

・令和2年11月、江別市・学識経験者・地元関係者による「江別市かわまちづくり協議会」が設立され、外輪船周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組の協議が進められている。

・また、令和3年1月からは、江別市と河川管理者、地域住民による「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の 策定と実践に向けた議論・検討等を行っている。

・今後、河川占用許可準則第22条(都市・地域再生等利用区域の指定)に基づく営利活動を行う民間事業者の参入が見込まれており、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指す。

【砂川地区かわまちづくり】

・砂川遊水地では、従来から市民団体がごみ拾いを行ったり、あじさいの植栽を行うなど、河川愛護活動が続けられている。

・流域自治体等で構成される地元期成会「北海道河川環境整備促進協議会」から、「河川等が連続した身近な公共空間・河川水面を地域固有の河川の特性を生かして利活用する、個性ある"まちづくり"に対する施策」及び「地域の特徴・魅力を高める水辺の整備」の積極的な推進が要望されている。

・平成28年1月に国、砂川市、NPO、地元住民などで構成する「オアシスパークからゆめまちづくり協議会 設立準備会」が設立され、かわまちづくりに関するワークショップで幅広い議論が行われるとともに、平成30年1月には「オアシスパークからゆめまちづくり協議会」が設立され、かわまちづくりを推進する環境が整っている。

・また、平成29年8月及び11月に、先例地の視察やウォーターヒルズスクエアを活用した物販、フリーマーケットなど新たな利活用を目指す社会実験の取組が実施され、これらの社会実験の結果を踏まえ、令和2年11月に都市・地域再生等利用区域の指定が決定した。

【恵庭かわまちづくり】

・恵庭市と関係団体、地域住民などで構成する「恵庭水と緑のまちづくり審議会」との協議を踏まえ、「ガーデンデザインプロジェクト」に 沿ったかわまちづくりを計画している。

・また、「恵庭市観光推進協議会」、「恵庭一万本桜植樹市民の会」、「恵庭河川愛護会」などの恵庭市のまちづくりや観光推進の関係 機関とも連携し、地域で一体となった体制で事業を進めている。

社会経済情勢等 の変化

・漁川では、従来から市民団体がごみ拾いや植樹・植栽活動を行うなど、河川愛護活動が続けられている。

・令和5年6月にかわまちづくりの事業範囲の一部を含むエリアが「花の拠点かわゾーン地区」として、都市・地域再生等利用区域の指定がなされた。

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

「北海道河川環境整備促進協議会」及び「空知地方総合開発期成会」から、夕張川の自然再生の取組が要望されている。

・「石狩川下流自然再生実施計画書」に基づき、維持管理や環境教育、モニタリング調査、情報の発信・提供などについて地域の NPO、専門家、住民などと連携しながら取り組んでいる。

・これまで、地元NPO主催のフットパスイベントと連携した自然再生の紹介や地元自治体や教育委員会、NPO団体等からなる「幌向地区自然再生ワークショップ」による自然再生フォーラムの開催などの取組が実施されている。

・さらに、地元企業と連携した湿生植物を活用した商品開発、石狩川沿川の活動団体からなる「石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク」の設立など、連携協働の輪も広がっている。

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

•令和8年度着手

【千歳市かわまちづくり】

•令和8年度着手

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・事業進捗率:20%(総事業費5.9億円に対し、約1.2億円が実施済み)

【南富良野町かわまちづくり】

・事業進捗率:26%(総事業費2.6億円に対し、約0.7億円が実施済み) 【江別市かわまちづくり】

- 事業進捗率:47%(総事業費2.6億円に対し、約1.2億円が実施済み)

【砂川地区かわまちづくり】

|・事業進捗率:96%(総事業費4.3億円に対し、約4.1億円が実施済み)

【恵庭かわまちづくり】
・事業進捗率:95%(総事業費4.3億円に対し、約4.0億円が実施済み)

【石狩川下流自然再生(幌向地区)】

•令和6年度完了

【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】

•令和22年度完了(予定)

•湿地整備、浅場•深場整備等

【千歳市かわまちづくり】

令和12年度完了(予定)

•親水護岸、管理用通路、高水敷整正等

【旭川駅周辺かわまちづくり】

・令和15年度完了(予定)

·親水広場、取付道路、側帯等

【南富良野町かわまちづくり】

•令和15年度完了(予定)

•親水護岸、高水敷整正、管理用通路等

7

	【江別市かわまちづくり】
社会経済情勢等	·令和14年度完了(予定)
	・高水敷整正、側帯、管理用通路、アクセス通路、階段護岸等
	【砂川地区かわまちづくり】
	・令和10年度完了(予定) ・モニタリング
	【恵庭かわまちづくり】
の支心	・令和10年度完了(予定)
	・モニタリング
	【石狩川下流自然再生(幌向地区)】
	·令和6年度完了
	•管理用通路等
	<コスト縮減の方策>
	【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】
	・今後、実施設計段階において、他事業の土砂活用等のコスト縮減対策について検討する。
	【千歳市かわまちづくり】
	・今後、実施設計段階において、他事業の土砂活用等のコスト縮減対策について検討する。
	【旭川駅周辺かわまちづくり】 ・側帯盛土については購入土から土取場を活用することとし、約23百万円のコスト縮減を図る。
	・側市盆エについては購入エから工取場を活用することとし、利23日カロのコスト組織を図る。 【南富良野町かわまちづくり】
	・伐開した樹木を無償で提供することで処分費用を抑え、コスト縮減を図る。
	【江別市かわまちづくり】
	・側帯整備に他事業で発生した掘削土を活用し、約4百万のコスト縮減を図る。
	【砂川地区かわまちづくり】
	・管理用道路造成に他事業で発生したボックスカルバートを活用し、約14百万のコスト縮減を図った。
	【恵庭かわまちづくり】
	・管理用道路造成に隣接する恵庭市による公園整備により発生した土砂を活用し、約32百万円のコスト縮減を図った。
	【石狩川下流自然再生(幌向地区)】
コスト縮減や代	・植生移植を地元住民やNPOと連携して行うことで約18百万円のコスト縮減を図った。
替案立案等の可	<代替案立案の可能性> 【石物以下流自然再件(代数 214 区)】
能性	【石狩川下流自然再生(袋地沼地区)】
	・整備内容については、計画段階から住民代表、関係行政機関、河川管理者からなる「石狩川下流袋地沼自然再生ワークショップ」において議論を重ねており、現計画が最適である。
	【千歳市かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。
	・かわまち 2、9の美旭計画は、地九寅保有、11政寅保有などにより、議論を重ねており、現計画が取過である。 【旭川駅周辺かわまちづくり】
	・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。
	である。 【南富良野町かわまちづくり】
	・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。
	【江別市かわまちづくり】
	・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。
	【砂川地区かわまちづくり】
	・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。
	【恵庭かわまちづくり】
	・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【石狩川下流自然再生(幌向地区)】
	・整備内容については、計画段階から地域活動団体、有識者、国及び関係機関からなる「石狩川下流幌向地区ワークショップ」におい - でないでは、計画段階から地域活動団体、有識者、国及び関係機関からなる「石狩川下流幌向地区ワークショップ」におい
	て議論を重ねており、現計画が最適である。
+4r++61	
対応方針	継続
対応方針理由	・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案とする。
	<第三者委員会の意見・反映内容>
その他	
	<都道府県の意見・反映内容>

再評価

			11	LT 1/2=00								
事業名 (箇所名)	網走川総合水系環境	竟整備事業	<u> -</u>	担当課 担当課長名		水管理·国土保全局河川環境課 島本和仁			事業 主体	北海道開発	局	
実施箇所	北海道網走市、大空	每道網走市、大空町、美幌町、津別町						評価 年度	令和7年度			
該当基準	社会経済情勢等の急激な変化により再評価の実施の必要が生じた事業											
主な事業の諸元	【網走湖呼人地区かわまちづくり】 河川管理用通路、親水護岸、緩傾斜整備、高水敷整正、取付道路、利活用拠点、案内看板等 【網走かわまちづくり】 河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路、モニタリング等											
事業期間	事業採択	平成29年度	完了	令和17年度								
総事業費(億円)	約13.6(約12.2) [※] ※()内の事業費は工事諸費を除いた事業費			(億円) 約7.7(約7.3) [※] ※()内の事業費は工事諸費を除いた事業費				た事業費				
目的・必要性	〈解決すべき課題・背景〉 【網走湖呼人地区かわまちづくり】 ・網走湖にはミズバショウ群生地等の豊かな水辺環境が広がり、大曲湖畔園地、ホテル、キャンプ場等の観光交流施設が点在しているものの、それらを繋ぐ観光動線の整備が不十分な状況。 ・また、網走湖は網走中心市街地から約7km離れており交通アクセスが良好でないため、効果的な誘客が行われておらず、網走湖の持つ観光ポテンシャルを十分活かし切れていない。 【網走かわまちづくり】 ・河川管理用道路は網走川を横架している橋の橋台で分断されていることから、動線の連続性の確保が課題となっている。 ・また、網走川沿いの一部区間では階段護岸が整備されているが、大きな段差があり、管理用道路等のパリアフリー化が必要となっている。 ・また、網走川沿いの一部区間では階段護岸が整備されているが、大きな段差があり、管理用道路等のパリアフリー化が必要となっている。 〈達成すべき目標〉 【網走湖呼人地区かわまちづくり】 ・河川管理用通路・取付道路を整備することにより、網走湖畔までのアクセス性が向上するとともに、網走湖畔に親水護岸・緩傾斜を整備することにより、水遊びやカヌー等の昇降を容易にする。 ・既存施設を網走湖畔における利活用拠点や観光交流施設として有効活用することで、賑わいの創出が期待できる。 ・案内看板の設置により周辺の観光交流施設利用者を網走湖畔に誘導し、網走湖周辺の周遊性向上を図る。 【網走かわまちづくり】 ・網走川を横架している橋の橋台で分断されている管理用道路の分断箇所を、ボックスカルバートにより連絡し、網走川河口から大曲湖畔園地に至る動線を確保することにより、安全な水辺へのアクセス向上を図る。 ・階段護岸の箇所に取付道路を整備し、高齢者や障害者等が安全に利用できるようパリアフリー化を行い、網走川沿いの親水性向上を図る。 ・階段護岸の箇所に取付道路を整備し、高齢者や障害者等が安全に利用できるようパリアフリー化を行い、網走川沿いの親水性向上を図る。 ・階段護岸の箇所に取付道路を整備し、高齢者や障害者等が安全に利用できるようパリアフリー化を行い、網走川沿いの親水性向上を図る。 ・国内外からの観光客が、見知らぬ土地でも安心して利用できるよう、周辺地図や主要な観光スポット、モデルコース等が記載された看板を設置する。海外か											
便益の主な根拠	らの観光客も想定し、外国語表記も取り入れる。また、夜間なども安全に利用できるよう街灯やボックスカルパート内の照明を設置する。 【網走湖呼人地区かわまちづくり】CVMにより算出(令和7年度) 支払意思額:511円/世帯/月(住民)、受益世帯数:34,520世帯(住民:令和2年国勢調査の250mメッシュ人口・世帯を用いて、事業箇所30km圏内のみに限定) 支払意思額:650円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:333,158人(観光客:日帰り、令和2年度~令和6年度平均) 【網走かわまちづくり】CVMにより算出(令和6年度) 支払意思額:542円/世帯/月(住民)、受益世帯数:105,838世帯(住民:令和6年1月) 支払意思額:434円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:232,352人(観光客:日帰り、令和元年度~令和5年度平均)											
	基準年度	令和7年度	ŧ									
事業全体の投資効 率性	B:総便益(億円)	213	C:総費用(億	意円)		12	全体B/C (社会的割引率2%) (社会的割引率1%)	17.5 (27.0) (34.5)	B-C	201	EIRR (%)	24.0
残事業の投資効率 性	B:総便益(億円)	64	C:総費用(億	意円)		6	継続B/C	10.6		•		•
感度分析	事業全体のB/C 残事業のB/C 残事業費(+10%~-10%) 16.7 ~ 18.4 9.6 ~ 11.7 残工期(+10%~-10%) 17.4 ~ 17.6 10.3 ~ 10.8 資産(-10%~+10%) 15.7 ~ 19.2 9.5 ~ 11.6											
事業の効果等	【網走湖呼入地区かわまちづくり】 ・河川管理用通路、親水護岸、緩傾斜整備・高水敷整正、取付道路の整備により、網走湖畔までのアクセス性が向上する。また、既存施設を利活用拠点や観光交流施設として有効活用することで賑わいが創出され、案内看板の設置により、網走湖周辺の周遊性向上が図られる。 【網走かわまちづくり】 ・河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路、案内看板、街灯、ボックスカルバート内照明等の整備により、網走川河口から大曲湖畔園地に至る動線が確保され、安全な水辺へのアクセス向上が図られるとともに、網走川沿いの親水性向上が図られる。											
社会経済情勢等の 変化	〈関連事業との整合〉 【網走湖呼入地区かわまちづくり】 ・平成29年に改定した「網走市都市計画マスターブラン」では、「自然をいつくしみ、こころ豊かに市民がつどい、オホーツクの文化を創造するまち・網走」を基本理念として、「豊かきを実感できるまち」「自然を守り、育てるまち」「人と人の交流があふれるまち」を目標としている。 ・また、網走湖の呼入地区では、アクティビティを中心とした水辺空間の観光利活用推進による賑わいの創出を目指すとともに、網走川における新たな観光拠点の構築による網走市街地〜網走湖の観光交流人口の増大が推進されており、網走市のまちづくりにおいて網走湖は重要な役割を担っている。 【網走かわまちづくり】 ・「網走市総合計画(2018~2027)」に基づき、交通アクセスの円滑化による観光客の利便性向上や多様な関係者との連携による新たな観光地域づくり等を推進している。 「網走市都市計画マスターブラン」に基づき、網走川沿いのサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を推進している。 ・「網走市都市計画でスターブラン」に基づき、網走川沿いのサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を推進している。 ・「網走市観光振興計画 2019」において、網走の持つ豊かな地域資源や地域特性を活かした観光振興を目指し、網走かわまちづくりと連動した散策コースのPR等を推進している。 〈河川等の利用状況〉 【網走湖呼入地区かわまちづくり】 ・事業個所である網走湖呼入地区では、呼入浦キャンプ場を中心に、夏はキャンプ・ディキャンプ、カヌー等の水辺アクティビティ、冬はワカサギ釣り、ファットバイク等、網走湖と自然の恵みを利用した様々なアクティビティが年間を通じて展開されている。 【網走かわまちづくり】 ・網走川の河川敷は散策やサイクリングなどに利用されるなど市民の憩いの場となっている。さらに、川沿いには、オホーツク・文化交流センター、モヨロ貝塚館、みなと観光交流センターなど観光集客施設が立地するとともに、「あばしり道の駅タ市まつり」等のイベントが開催されるなど多くの市民や観光客が訪れる観光交流の場となっている。											

社会経済情勢等の 変化	 (地域開発の状況> [網走湖呼人地区かわまちづくり] ・網走市の人口は、約3.2万人(令和7年)で減少傾向にあり、少子高齢化の影響で65歳以上の高齢化率は増加傾向にある。 [網走かわまちづくり] ・網走市の人口は、約3.2万人(令和7年)で減少傾向にあり、少子高齢化の影響で65歳以上の高齢化率は増加傾向にある。 (網走湖呼人地区かわまちづくり] [網走湖呼人地区かわまちづくり] 網走河では、市内小学生・教育委員会・網走開発建設部・民間事業者やボランティアスタッフが参画する「あばしり学講座」を開催しており、水辺等での環境教育が推進されている。 網走川流域の会は、川でのアクティビティを安全に行う人材育成のため、網走川で「RACアシスタントリーダー研修会」を開催しており、地元主体の河川環境教育が行われている。 また、網走サイクリング協会は、網走湖畔の一部を使用した「オホサイ(オホーツクサイクリング)」を関係機関と共催しており、網走湖周辺のサイクリング利用が図られている。 [網走かわまちづくり] ・網走市では、網走市、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する意見交換会の場として「網走かわまちづくり検討会」を設置し、かわとまちが一体となった観光振興や親水空間創出の具体化を図る「網走かわまちづくり」計画を策定している。この計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「網走かわまちづくり」として国土交通省に申請し平成28年3月28日に登録された。
主な事業の進捗状況	【網走湖呼人地区かわまちづくり】 ・事業進捗率: 令和8年度着手予定(総事業費(直轄事業費)約7.3億円) 【網走かわまちづくり】 ・事業進捗率: 約99%(総事業費(直轄事業費)約4.9億円に対し、約4.8億円実施済み)
主な事業の進捗の見込み	【網走湖呼人地区かわまちづくり】 ・令和17年度完了(予定) 【網走かわまちづくり】 ・令和10年度完了(予定) ・モニタリング等
コスト縮減や代替案 立案等の可能性	スコト縮減 [網走湖呼人地区かわまちづくり]
対応方針	継続
対応方針理由	・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。
その他	<第三者委員会の意見·反映内容> <都道府県の意見·反映内容>